

# 武士道

Pride of Japan

第9号  
BUSHIDO

「今の日本はこのままでいいのだろうか」

# 言頭巻

武士道

柔らかな  
人の言葉は

荒金の

太刀も  
剣も

折る力あり

奈良毅作



【和歌】 柔らかな 人の言葉は <sup>あらがね</sup> 荒金の <sup>たち つるぎ</sup> 太刀も 剣も 折る力あり

作：奈良 毅(平成24年瑞宝中綬章受章)

書：篠崎流水(ハプスブルク王家宮廷書家)



奈良毅先生が武士道協会を思い謡われた和歌です。奈良毅先生、本多百代常務理事、立山雄二理事、松野國一参与、平川雄二参与と熊本県の幣立神宮へ参拝した後で、この和歌を書いて渡してくださいました。幣立神宮の神様はとても穏やかで優しく強いお方なのだそうです。

「これからの武士道協会も女性会員を増やして、幣立神宮の神様みたくあるように」とのことでした。それが、武士道協会への遺言になりました。穏やかで、やさしく、そして、強くあるためには、天地自然の理法の下、信念と志を抱き、惻隱の情で接し、時空を超越した智慧で判断しながら生きることと言えるでしょう。正に、武士道協会が伝える精神です。

## 特別寄稿

# 日本人と武士道精神

ハプスブルク王家宮廷書家／風水龍書作家

## 篠崎流水



極端な右寄り、左寄りの話を書くつもりはありません。これから書くことは七十歳くらいから上の人なら当たり前に教えられ、考えていたことが、現在の日本では全く教育されず、早く日本人の心を取り戻す教育をしなければいけない、という話です。

私は書歴六十有余年の書道家です。私の生誕を明治時代に換算すると、「明治七五年生まれ」ということになります。私が生まれたのは戦前で、周囲には昔、武士であった人、あるいはその武士の教えを受けた子供たちが、大勢いたことになりました。ということは、私が生まれた戦前は、武士道精神が当然受け継がれていたと考えられます。私は若い頃から学んできた武士道精神学に新しい感覚の武士道を取り入れたいと思っていました。

日本には古代神道（山や水や岩や木など自然のものを敬う心）、孔子が言われた訓語をまとめた論語（儒教）、一五〇〇年くらい前に中国を経て伝わった佛教、鎌倉時代に作られた子供用の教訓書と言われる実語教などが、日本歴史が始まってから江戸時代まで心の学びとして、武士を中心に伝え受け継がれました。敗戦後（二九四八年）私が七歳のころ、この教育勅語は廃止されました。我々の年代は当然、先に記し

た数々の徳育を受けてきたのです。それが武士道精神なのです。その成果は子供たちにも現れています。子供同士のけんかはよくやっています。その場限りで終わっていました。陰湿な事件沙汰になることはなかったようです。現在はどうでしょうか。

武士でなくとも、この「道」は日本人が立派な人間として、「なすべき」こと、「持たなければならぬ心」の「道」のことであり、実語教、儒学（論語）、教育勅語などが、戦後、日本の教育から廃止されたことでの弊害は如何ばかりか、言葉では言い尽くせないものがあるのです。論語を多少なりとも研究した方なら解ることでしょうが、「自分は武士ではない。武道家でもない。だから武士道とは全く無縁である」と断ち切れない問題なのです。

そのような現状の世情を嘆いて集まった人たちが武士道協会であります。日本武士道精神は、武士がサムライでなくとも日本人であるならば、人間として行うべきこと、考えなければならぬこととその心のこと。そのようにとらえる「書の道」龍粋會の精神「書は人間道である」と同じことを言っていることになりました。つまり、我、書友龍粋會は書道は人生道、人間学であると考えているのですから、龍粋會のメンバーは

早くから人間道を学び、武士道を学んでいたことになるわけです。字が上手くなるだけで勝手に手本を購入するか、習字で良いのです。道を学ぶ以上、道を窮めねばならず、そこには武士道精神が求められるのです。

自由な心で自由に書くことが書道界にも流行っていますが、これは悪いことではないかもしれませんが、自由を履き違えて自由、勝手にやっつては、伝統書法、武士道精神に基づかない書は見られたものではない。そこに求められるのは伝統の武士道精神なのであります。書道と武士道は切っても切れない相通する精神が根底にあるのです。

否、武士道こそが書の道なのである。

### ●プロフィール

一九四一年福岡県生まれ。風水龍書作家（書アーティスト）。宮廷芸術会員（オーストリア・ハプスブルク王家宮廷三〇〇参拾選）（明治以降の日本を代表する巨匠書家三〇名）に選出される。

美の世界芸術遺産賞（ルーブル美術館）、世界芸術家辞典に登載（順天出版）、伏見宮殿下（元皇族）に「風水龍」献上の栄誉。「ハプスブルク、ザルツブルグ王家秘宝展集」に作品掲載要請。国連顕彰特別功労賞に推奨。A.M.S.C. 国際芸術家会員に推奨（スペイン本部）。仏国「ラファイエット平和賞」に推奨（第二十一回図書オリンピック（ハンガリー）」に高師北斎ら二〇〇名出場決定。

# 西欧初の日本の神社建立

## —サンマリノ神社—

武士道協会理事／サンマリノ共和国特命全權大使

マンリオ カデロ



サンマリノ共和国に六月二二日、西欧で建立される神社としては初となるサンマリノ神社が建立されました。そして、神社と文化と精神性について書いた著書「だから日本は世界から尊敬される」(小学館新書)が六月二日に八〇〇〇部発刊され、有難いことに想定を超えた反響を頂き、一週間もたずに重版が決まりました。今、若い人達を中心に日本の伝統や文化の良さが再認識され、より求められてきているように思っています。数年前では思いもよらないほど意識されていることを感じます。素晴らしい変化だと思います。

日本には街を歩けば当たり前前に神社があります。だから、改めて意識することなく通り過ぎていくのではないのでしょうか。神社だけでなく、キリスト教式の教会、仏教式のお寺とありとあらゆる宗教が不思議な調和を帯びて、その神聖な空間を醸し出し存在しています。日本の神社はキリスト教の教会と違い、祀られている神様が自然神であったり人物神であったり、それぞれの神社によって違います。麻布にあるサンマリノ共和国大使館に一番近い神社に、氏神様というのが最近では一般的ですが産土様(うぶすさま)の麻布氷川神社があります。近くにはアメリカンスクエアがあり、一瞬日本にいながら外国のような雰囲気漂う町中に、氷川神社が建っています。

主祭神が素戔嗚尊(すさのおのみこと)で、日本武尊(やまとたけるのみこと)も配祀しています。こちらの神様は出雲系の神様ですが、サンマリノ神社は天照大御神を祀っています。天照大御神は太陽神であり、誰に対しても、良いことをした人にも犯罪者にも分け隔てなく平等に日の光を与えています。それを最高の神とする日本人は、天皇(すめみこと)の下に礼儀正しく惻隱の情をもって生活していることが、東日本大震災の時に世界に知れ渡りました。日本は八百万の神々の国であるからこそ、どの宗教も日本人の生き方の中に上手に組み入れて仲よく共存しています。それが日本の文化であり生き方であり、それを武士道とも表現し、また、太陽のよう

な生き方を模倣しているともいえるのです。武士道の根幹となるものは、自然と先祖を崇拜する生き方の神道であり、切っても切れない関係にあります。その神道の神様を祀るお社が神社ですから、サンマリノ共和国は神社を建立することで、ますます日本の文化や伝統、精神性(武士道)と深く関わり合うこととなります。から、大変嬉しく誇りに思っています。

サンマリノ共和国は、イタリア北東部にある世界最古の小さな共和国で、世界初となる日本初代天皇である神武天皇の金貨を発行し、その売り上げの一部を充当してこの度のサンマリノ神社建立となりました。日本の古く豊かな文化、

伝統、歴史を讃えている共和国です。武士道を愛する日本の皆様が、サンマリノ共和国にも興味を持ってより親睦を深めていただくことを望んでいます。

●プロフィール  
マンリオ・カデロ、イタリアのシエナにて出生。

イタリアで高等学校を卒業後、パリのソルボンヌ大学に留学。フランス文学、諸外国語、語源学を修得。パリ滞在中の四年半の間、ウィーン大学、シエナ大学、マドリッドのマンゴルド学院等の夏期講座や言葉・文化コースにて研鑽を積む。語源学を修了した後、大手新聞社コリエ・デッラ・セーラの出版部門でジャーナリストとしてのキャリアを始める。一九七五年に来日、東京に移住。イタリアの大手出版社と提携し、イタリアの情報誌「ルポルタージュー、ニコス」等の新聞雑誌を日本に紹介するサービスを中心とする事務所を東京に開設。コリエ・デッラ・セーラの出版部門、出版社リッツォーリ、出版社ルスコーラ、エディスポーツ、エディモータ等を日本に紹介、代表を務める。一九九九年までこの業務に従事し、その間外交官としての仕事も開始する。複数の著書があり、二〇一二年には「コスモポリタンになる」が出版され、二〇一四年六月には「だから日本は世界から尊敬される」が出版された。

一九八九年に、在日本サンマリノ共和国の領事として任命される。サンマリノ共和国に関する宣伝活動その他の功績が認められ、以下の勲章を受章する。

- 一九九四年 聖アガタ騎士勲章
  - 一九九九年 聖アガタコメンダトル勲章
  - 二〇〇三年 聖アガタ大十字勲章
  - 二〇〇五年 聖マウリツィオ・ラザロ騎士団上級騎士勲章
  - 二〇一〇年 イタリア共和国騎士勲章
  - 二〇一二年二月、日本初のサンマリノ共和国特命全權大使として任命される。様々なボランティア活動にも参加。
  - 二〇〇九年〜二〇一〇年 駐日大使代表として平和大使。
  - 二〇一二年五月三日より、駐日外交団団長。
  - 二〇一二年七月八日 東京国際大学 特命教授就任。
  - 二〇一二年二月 観光庁アドバイザーに任命。
- 現在もサンマリノ共和国の大使として、外交活動を継続中。

特別寄稿

## 世界の中の日本人

武士道協会参与／俳優・水彩画家

榎木孝明



現代社会において私達日本人ばかりでなく世界の多くの人々が、今の世の中はこのままでいいのだろうかとの疑問と不安を感じています。では何に對してかと考えますと、大方物質文明の行く末への疑問と不安と言っても過言ではありません。ただ本当の問題はその疑問と不安に對しての対処の仕方が解らないということではないでしょうか。解らないままに時間だけは容赦なく過ぎて行きます。そんな日常の中で、私達は誰かが様々な問題を解決してくれるに違いないと人任せにし過ぎてはいませんか。

歴史は日々の人々の想いで創られて来ました。人間の意識がこれからの時代をどんな方向にしたいのかと想うことで未来は決まって行きます。戦争をしている国のレベルではそこに競争原理が働き、その勝敗の結果で憎しみや優越感など負の格差意識が生じます。近年の時代の移り変わりにおける急激な物質文明の発展と、本来の人間としての成長すなわち精神の進化とは正比例しない、というのが大方の人々の感じるところではないでしょうか。物が周りに増えればそれだけ満足度が高まるかというところでもなく、むしろ精神の欠乏感が増して行くという現実の

本質にそろそろ気づいても良い時代なのではないでしょうか。

ヨーロッパで十八世紀後半に産業革命が始まって以来、世界は急激な科学の発展のお陰で便利さが増して来ました。その結果の一見何不自由ない暮らしは、人類が目指してきた文明の行き着く先のように思いがちです。しかし人間の飽くなき欲望は絶え間のない競争心を煽り、戦争や環境破壊を引き起こしている現実があります。

日本には大和心や大和魂という言葉に代表される「和をもって尊し」という倫理が古くから発展して来ました。その解釈は人によって多少の違いはあるにせよ、大方の日本人にはそれらが生きる上での規範だという共通認識があります。元来日本人は己れの欲望のままに生きるのではなく、世の為、人の為という気持ちを持って自分を律する生き方をして来ました。三・一一の大震災の中においてもその被災者の皆様は、自らの行動にその範を世界に示して下さいました。その戒めは自然を尊び敬い畏れ、自分はこの世に生かされているという謙虚さに繋がります。この想いこそまさに現在の地球に最も必要なものではないでしょうか。地球人が自らを滅

ぼす愚に至らない為にも、古来の日本人的発想が今の世界に不可欠ではないでしょうか。

私は今から二年ほど前から「時代劇再生運動」を提唱して来ました。この運動は廃れつつある時代劇にもう一度注目して、時代劇を通じて本来の人間として大切な心を再発見しようという運動です。私は日本人の遺伝子の中に培われて来た謙虚さと優しさと慈愛は、時代劇を通じてより深めることが出来ると思っています。

世界に冠たる武士道の心を持つ国としての自信と誇りを私達一人一人が再認識出来た時、日本から新たな歴史が始まるのかもしれない。世界中の人々が我欲を捨てて地球人の一人である自分に気付くきっかけを作れる……。私はそんな時代劇を創って世界に発信するという夢を見続けて行くこうと思っています。

### ●プロフィール

武士道協会参与。

鹿児島出身。武蔵野美術大学デザイン科に学ぶ。劇団四季に入団、一九八一年『オンディーヌ』で初主演。一九八三年劇団四季を退団し、一九八四年NHK朝の連続テレビ小説『ロマンズ』主演でテレビデビュー。その後、俳優として、映画・テレビ・舞台で活躍。旅を好み、アジア各地を中心に世界の風景を描き続ける。毎年各地で個展を開催。



## 特別寄稿

武士道協会参与

JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院  
副院長・外科部長

長堀 優

# 武士道といふは死ぬことと見つけたり 外科医から見た武士道精神



私は外科医として、主にがんの治療や救急医療に携わっておりますが、今回この稿を起すに当たり、図らずもこの外科学と武士道が、常に死と対峙するという宿命を共有していることに気づかされました。従来この死を医学は敗北と捉えてきました。その理由は明らかで、西洋医学が二元論と唯物論という大きな柱に支えられているからに他なりません。二元論は物事を善悪の如く相反する二極に分断して捉え、唯物論は世の事象は全て物質に起因すると考えます。この原理に則れば、病気は悪、死は肉体という物質の消滅そのものです。もちろんこの病気は悪という概念こそは医学を発展させる原動力になったのですが、反面で死を究極の敗北と捉えます。しかし意外なことに、臨床現場には、病気を機

に生き方を好転させたり、絶望的な死の前にして輝く患者さんがいるのです。万事塞翁が馬との諺もあるように、実は善と悪は分かちがたく互いに移り変わるのであり、東洋的な善悪不二という思想が医療の現場には不可欠であることを、私は多くの患者さんを通じて学びました。

あの三・一一の過酷な体験で思い知らされたように、人の命といえど大自然の営みに比べれば誠に儂いもの、しかしだからこそ、生を受けたことは決して当たり前ではなく、災害、病を通じてこの世に生かされているという奇跡に気づけば感謝が生まれ、今の一瞬を悔いなく生きようという強い力が湧いてきます。今に思いを集めれば、過去の後悔や将来の不安が消え、今現在を輝かせて生きること

につながります。そして、生死への拘りを越え死にも囚われなくなります。この思想は、仏教における前後際断、神道の神髄である中今という言葉に凝縮されます。生死はひと繋がり、死を受容すれば今一瞬の生が輝くという東洋の叡智こそは、人間を死、消滅の苦しみから遠ざけます。ひいては武士道といふは死ぬことと見つけたりという葉隠の一節にもつながり、武士道精神の根幹の一つをなすものと私は考えます。生死が渾然一体となった東洋的一元論を受け入れれば、あの世へ持つていけない俗世的な物質への執着は自然と消えるでしょう。なにより物は有限であるのに対し、目に見えない世界は無限です。物欲から離れ、目には見えないけれど尽きることのない心の豊かさ、利他を追い求めれば、

人間は美しく生きることが出来ます。究極の責任の取り方であるハラキリもこの清明心から生まれたのでしよう。我欲を越えた分かち合いと調和に溢れた平和な社会、現世における涅槃ともいえる社会こそは、武士道の求める世界であるはずで。

私が関わる医療の現場にも幾多のサムライがいたようです。死の恐怖と直面する極限状況のもと、徹底的に死を見つめて受け入れ、そして静謐な心境に至り、私に多くの示唆を与えてくれたがん患者さんたち、その勇壮な態度こそは武士道を立派に体现されたお姿ではなかったかと私には思えてならないのです。



#### ●プロフィール

JCHO横浜保土ヶ谷中央病院副院長・外科部長。  
昭和三十三年八月五日東京都生まれ。昭和五十八年群馬大学医学部卒業、同年横浜市立市民病院研修医、昭和六〇年横浜市立大学医学部第二外科(現消化器腫瘍外科)に入局。平成五年ドイツ・ハノーファー医科大学に留学(ドイツ学術交流協会奨学生)、その後、横須賀共済病院外科医長、横浜市みなと赤十字病院外科部長、財団法人船員保険会横浜船員保険病院副院長・外科部長などを経て、平成二十六年現職に就任す。日本外科学会指導医、日本消化器外科学会指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、神奈川県がん治療研究会世話人、信州大学医学部組織発生学講座・委嘱講師など。

#### 図書紹介



見えない世界の科学が医療を変える  
長堀 優 著  
定価 1,300 + 税

#### 武士道協会からの推薦

本文より：「自分の体から生じたがん細胞は本来決して憎むべき相手ではないのです。それどころか人生において大切なことを気づかせてくれるメッセージを携えていることさえあるのです」。ぜひ、一度ご覧頂き、病気に対する考え方をもう一度見直してみたいのです。長堀先生が患者さんからおそわった大切な言葉「がんの神様」。

最後の方に登場する桑原啓善(ペンネーム：山波言太郎)さんは、武士道協会の会員で塩川先生のご学友でした。こまめにお便りをくださり多くのことを教えてくださいました。この場を借りて、桑原さんのご冥福と彼の世での更なるご活躍を心よりご祈念申し上げます。

#### 【寄付のお願い】

武士道協会の運営にご協力をお願い致しております。

1. 一口 3,000 円のご寄付をお願いいたします。
2. 振込先(寄付専用口座): 三菱東京 UFJ 銀行 新宿副都心支店  
普通 0160509 名義: NPO 法人武士道協会
3. 寄付申込書(同封の寄付であることを証明する書類・あるいは協会サイトよりダウンロード)を FAX.03-5325-1618 へ、或いは郵送にて、〒163-1320 東京都新宿区西新宿 6-5-1 新宿アイランドタワー 20 階 武士道協会宛ご返信ください。

会員さんの社会貢献の夢を武士道協会が後援することで実現させることを協会の目標とし、地球が平和で美しい星となるよう貢献して参りますので、何卒ご協力賜りたくお願い申し上げます。

# 武士道協会の果たす役割

武士道協会常務理事兼事務局長  
人材育成のラインエッジ代表取締役

本多百代



武士道とは何か？ いつから始まったのか？

「武士道」という言葉の語源のことを指しているのか、あるいは「武士道精神」という心の在り方であり生き方のことを指しているのか、それによって答えは違ってきます。歴史としての認識も大切です。知識をつけることで智慧となるのですから、武士道の歴史を学ぶことは確かに必要なことです。しかし、知識を智慧にするのは非常に難しく、論語読みの論語知らずになる危険性は大きくと言えます。武士道協会は武士道精神を伝え広めることで、この地球を宇宙で最も平和で美しい星にするために、世界中の人たちがそれに必要なことを実践できる羅針盤の役割を担っているのです。

どうしたら平和になるのでしょうか。人間の思いや発想が現実を作っていきます。今は飲料水の銘柄になっている「お〜いお茶」は、夫が妻にお茶がほしい時に言った言葉です。「お〜い1チャンネル」これも今は在り得ませんが、夫がテレビのチャンネルを替えてほしい時に言った言葉です。この時の「座ったままでチャンネルが替わればいいのに！」という思いが実り、今ではリモコンが当たり前です。このように、思いは現実化します。だからこそ、「何を思うか」が平和への第一歩を作り出すと言っても過言ではありません。

地球上の誰もが平和な生活を心から望んでいま

す。それなのに何故地球上で戦争が絶えないのでしょうか。戦争を引き起こす一番の原因は、人間の心が妄想する「不安」です。「この先、〇〇が無くなったらどうしよう？」「攻められたらどうしよう？」等々、実に毎日の生活が不安でいっぱいではないですか。心の底から微塵も不安がない状態であれば、不幸は来ないのですが、「絶対に大丈夫と信じること」がなかなか出来ないから、不安たるものが現実化してしまうのかもしれないです。危機管理をして、すっかり忘れていけばいいのです。デル・カーネギーも言っていました。しかし、動物たちのように明日の食物のことも考えずに、「今」だけを生きるのは実に難しいことですから、不安をなくすことの難しさは人間が魂磨きをする良い勉強になっていると思えるのです。

それならせめて、自分だけが良くなるよう、良く在ろうと思わず、みんなが幸せになろうと心がけでみようではありませんか。自分が一番、自分の家族が先に……の思いを減らし、分け合う、許し合う、助け合うこと、お互い様お蔭様を気持ちよく思う自分であるように惻隱の情で生きようではありませんか。また、本当に幸せな人は、逆境の中でも小さな幸せを見つけ感謝できる人だそうです。この逆境を何とか乗り越えれば幸せになる、と思つて努力して

いてもなかなか幸せは来ないそうです。それは、今の思いが将来をつくるから、今幸せと言つて初めて未来も幸せになっていくのです。

武士道は戈を止めることを究める生き方です。仲睦まじく生きるには、世界中が自分と同じだと思つて気持ちを育むこと。早速、身近なところで「否定をしない」「必要以上を望まない」「欲を張らない」等々そのあたりから究めてみませんか。簡単そうで難しいからこそ信念にしてもよいと思います。地球を平和で美しい青い星と自信を持って言える社会を一緒に力を合わせて作っていきましょう。

●プロフィール  
武士道協会常務理事兼事務局長。人材育成のラインエッジ代表取締役。

経歴：中日新聞名古屋本社中日研修センターで8年間、中日新聞東京本社企画開発室で4年間、組織開発(OD)プロデューサー、研修講師として勤務し、組織立ち上げ、営業(テレアポ・訪問)教育と人材育成プログラムの開発を担当。二〇〇四年人材育成のラインエッジを創設し、代表取締役に就任。大学特別講師歴任(中央大学、大妻女子大学、神奈川大学、大東文化大学e.t.c.)、教育委員会、青年商工会、商工会議所青年部、JU青年部会、神奈川県議会議、農協、ロータリークラブ卓話、中小企業同友会、倫理法人会、異業種交流会、全会津文化祭会津工団、中日新聞社、朝日新聞社、民間企業内専属研修講師、武士道協会主催人間力向上セミナー講師、武士道学校講師・さむらい塾(子供教室)講師。著書『これで完璧人材育成白書』酒寄ユリヤ著(ペンネーム)



# Bushido Spirits

武士道協会理事／東山堂代表取締役

木村隆彦



私がこの仕事を始めるきっかけになったのは、三十年近く前に剣道のイタリアナショナルチームが来日し、その時に知人の剣道家に通訳を頼まれたことから始まります。私はイタリア語は話せませんでしたが、英語なら少しは役に立てるのではと軽い気持ちで引き受けました。それまでの私のイタリア男性に対する印象は陽気で明るく、けれど軽いイメージでしたので、剣道も適当にやっつて、稽古もそこそこに東京観光のお供も覚悟しておりました。

しかし、彼らが稽古していた道場に入った瞬間にその思いは完全に覆さされました。「本当に今稽古している人たちはイタリア人なのだろうか」。

剣道は面をかぶって稽古するので顔が見えないのですが、道場のピンと張りつめた空気と、殺気すら感じる迫力ある立ち合いに足がすくむほどでした。私はとんでもない勘違いをしていたことを心の中で詫び、彼らの稽古を正座して見守りました。

その剣道のレベルの高さもさることながら、真摯に稽古に励むその姿勢や指導者の先生に対する礼儀正しさにも深く感銘を覚えました。

正に完全に一本取られた心境でした。何が彼らをそこまでさせているのか。私がイメージしていた軟派なイタリア男は作り話だったのだろうか。私はその答えが見つからないままに稽古は終了し、次の予定である市長への表敬訪問に帯同し通訳をしました。

イタリア人はあまり英語は得意ではないようでしたが、一生懸命その思いを伝えてくれました。そしてついにその答えがある若い選手のあいさつにより見つかったのです。

I am trying to reach to Bushido spirits through practicing Kendo!

「私は剣道を通して日本の武士道精神を学んでいます」

その青年は姿勢を正しく整えると堂々と語ったのです。

私はその言葉に衝撃を覚えました。

「武士道！ イタリア人が！」。日本人である私も意識していなかった武士道精神を学ぶためにあの厳しい剣道の修行にも耐えられていたんだと……。

それから彼らとの交流を深めていく中で、異口同音に海外での武道修行がいかに大変かを聞かされました。特に困っていたのは剣道に必要な道具が簡単に手に入らない。また売っていたとしても、日本製ではなく価格も異常に高くてなかなか買えないというような話でした。確かに彼らの竹刀を見たらささくれたところをテープで留めて使用していました。

「日本を愛してくれていて彼らの力になりたい」「質の高い日本製を安く供給したい」。私はその日のことが縁で海外向けの武道具販売会社を立ち上げ

ることになりました。もしあの時にイタリア語が来ないからと断わっていたら、今この仕事はしていませんでした。

お陰様でその会社も今年で創業二十五周年を迎えることが出来ました。現在世界七〇か国以上の国々で「武 HOKODOME」のブランドは愛用されています。これからも質の高い武道具の生産と販売を通して世界中のサムライたちを応援しながら、さらに武士道精神を正しく広めていく所存です。

## ●プロフィール

一九五八年生まれ。大学卒業後に単身海外へ。帰国後に大手情報会社へ入社。京都は西陣に本社を置き、剣道・居合道・合気道・柔道・空手・なぎなた等の武道具とそれに付随する袴などといった衣類の製造と販売をおこなっている東山堂を一九八九年創設。社是は「常に人々に喜ばれる企業であり続ける」。社章として「武(HOKODOME)」を二〇〇八年に商標登録。「武」は戈(ほこ)を止める精神。二〇〇九年、真言宗高野山にて得度(法名 宝徳)。二〇一〇年、純国産武道具の製造と普及のために新会社を岩手県に設立。日本古来の技術と伝承と若手職人育成を行っている。現在、日本国内をはじめ世界七〇か国以上に販売。幼少より長崎という異国文化が行き交う場所であったが故に、己のルーツである日本文化は特に際立った存在であり、月日を重ねるほど、志である「日本の文化を広めたい」が大きなものとなり、イタリアの剣道チームの通訳をしたことから大きく動き出した。「何かをしたい」「どうにかしたい」という気持ちがあることを大事にしている。



## 私と武士道協会

武士道協会参与兼福岡県支部副支部長／  
マツノデザイン店舗建築株式会社代表取締役社長

松野國一



「もし自分が神ならばこの場合どうすべきか」を直感で判断し、日々全人類、全生物、全存在物の平和と幸福を祈り続けて生きていくしか方法はないのではありませんか」これは平和を祈り続けて今年亡くなられた奈良毅先生の言葉である。武士道協会の仲間と熊本の幣立神宮にお供した時、たった一回の出会いでこれほどまでに私の心に焼き付いた言葉は今までに無かった。人の出会いや人生の浮き沈み、その時々に変わる喜びや悲しみ等数限りない経験を味わってきた。私が遭遇する出会いや現象の一瞬一瞬は、一体何がそうさせているのか大変興味深いものである。偶然はなく全てが必然であるならば、今までの出会いや遭遇は私にとって巡り合う必要があつて、また避けようのない縁だと考えたと非常に腑に落ちる。

幼児の頃大病で生死をさまざつたと親から聞いた。また夜明けの仕事帰りに、私の乗った乗用車がトラックの中にのめり込み車は元の形を留めないほど大破して、救急車で運ばれ一命を取り留めた記憶が蘇ってくる。仕事で大型物件を受注して一年がかりの建築竣工の後、最後の代金が先方の倒産により未回収になりどん底に落ちた時、全く予期しない苦しい時に有難い仕事が舞い込んで九死に一生を得た時、どれをとつても人知を超えた所のサムシング・グレート（人間を含めた万物は大いなる自然の一部で生きていて・・・村上和雄先生）の采配であつた。絶体絶命の時に必ずといつていいほど何処からか救世主が現れて私を救ってくれたのだ。本当に有難いことで何回も地獄に佛を見た。

これも必然であるならば、今までの経験は来るべくしてきているわけで全てが私を鍛え上げる狙いで、

何のムダも無く何秒の狂いもなく予定通りの出来事がやってきたであろうと思うと「なるほどそうだったのか」と頷けるような気がする。「自然に逆らわず自然があるがままに受け止め自然と共に生きていくのだ」と示唆されていることを最近妙に感じる。三・一一の東日本震災で私に岩手大学のS教授からSOSのメールが届き、それをすぐ仲間に呼びかけて心から被災された人たちに手助けができたことは無償の愛の行動であり、全員が心一つにしてサポートした絆の証である。

人のお役に立ちたい、社会の役に立つ一員でありたいと願うのは日本人だけでなくも当たり前の人間なら誰しもが持つ自然の感情であろう。一方、世界に目を向けると戦争や内乱、エネルギー獲得戦争や地球規模での環境汚染など悲しい出来事が多過ぎる。その原因を作っているのは全て利己的で傲慢なこれもまた人間である事は間違いない。

先日の西日本新聞に世界の1%の人が世界の人口の半分の所得を吸い上げているという記事が出ていた。しかもその金は浪費や不正蓄財などが多く、社会に還元されていないという。これなどは拝金主義社会になり下がった最たる社会悪現象である。今世界は社会環境もそれを取り巻く人間の精神性も共に欠如しているように感じる。勿論経済発展なくしては平和な社会や楽しい暮らしはありえない事は言うまでもない。しかし、もしこのようなアンバランスな現象が今後そのまま続いていったら、私達の家族は？私達が住む福岡は？私達が住む日本は？そして私達が住むこの地球は？一体どうなるのだろうか？色々と私たちに人の暮らし方や人の生き方、

考え方の決断を迫られる状況がすぐそこに来ているのに・・・。

いみじくも昨年六月に武士道協会福岡県支部は立ち上がった。「惻隱の情とは」「武士道憲章」「すべては国民のために祈る天皇」などを本多百代先生から学んでいる。今までの経験や社会環境の中から「天地自然の理法と共に生きる」ことを体験したからこそ深く理解できるし、多くの人との交流体験の中から自然に、相手を傷付けない思いやる気持ちや周りの人に迷惑をかけない生き方など「惻隱の情」を実感している。「利他」の精神で相手を思い、お年寄りや不自由な人が困っていたら自然に手が出る優しさがある日本人、お互いがお互いを慈しみ、助け合い、分かち合うことのできる日本人、そのような素質が日本人のDNAには刷り込まれている訳で、その日本人の良い所を再確認して自ずから実践するためのプラットフォームが武士道協会福岡県支部であると思う。「あなたがいたから御蔭で私は助かった」武士道協会はこのような優しい人づくりの和の集団であり続けたい。

## ●プロフィール

武士道協会福岡県支部副支部長、マツノデザイン店舗建築株式会社代表取締役社長。  
出身は熊本県玉名市。九州産業大学芸術学部デザイン科卒業。昭和五十二年（株）船場を退社後、マツノデザイン個人創業。平成三年マツノデザイン店舗建築株式会社設立。今年九月に独立三七年目を迎える。本当にアツという間の出来事であった。お客様に叱られ、支えられ、学ばせて頂き、なんとか人としての生き方が出来るようになってきた。これを私の武士道の実践といつて良いなら、逆境も素晴らしい経験といえるだろう。

# 武士道協会会員の皆様こんにちは

武士道協会参与／川俣組監督

青山 誠



私は、協会の会員となって四年が経過しました。未だに武士道精神が身につけておりませんが、人として正しく生き抜くために『武士道』を学び、日常生活に『武士道』を生かすために「日々是修行」と励んでおります。

しかし、武士道には教義教典がないことから、それぞれが独自の武士道を論じ、それが故に自分に都合のよい武士道が生まれたりもしているように感じます。長い間、武士道と共に生きてきたであろう立場の方が、「私が正しい！」と自身の意見を押し通すために大きな声で恫喝している場面があります。その方は一見剛直に正義を貫いているかのように見えるのですが、実はそこに否定が入り、惻隠の情からかけ離れた行為になっていいると思えます。そのような方ももし武士道で鍛錬を積み重ねてきたとしたら、それは相手を負かし屈服させることが目的となってしまうのではないのでしょうか？ 我が国固有の精神である武士道を伝道するにあたり、伝道者の言っていることが十人十色では何をもちって武士道と捉えればよいのか、伝えられた人たちは恐らく分からないはずで

そこで、武士道協会首都圏地区本部設立準備委員会では各会員が共通理念を保持することを目的とし、協会の理念と相違がないことを確認するために、三年前から「武士道憲章」を毎月一章ずつ学んでおります。初年度と二年目は本多常務理事の講演を拝聴し、ある程度の共通認識を構築してきました。そこで今年度は、講話者を会員から募り、塩川理事長にご教授いただいた活学に取り組み、会員が歴史上の人物等から独自の武士道論を述べ、その後ゼミナール形式で参加者全員による意見交換をしています。

「武士道憲章」は武士道の真髄を言い当てており、学べば学ぶほどその奥の深さと日本人の思想の素晴らしさを痛感いたします。この「武士道憲章」を学び、身につけることにより、人として正しく生きることができ、社会に貢献できる人間性が養われて行くことを確信いたします。私達、首都圏地区本部設立準備委員会がこの三年間に、会員として共通認識した「武士道」とは下記の通りです。

一、武士道の本質は「戈を止めることを究めた生き方」であること。

一、武士道とは、我欲を捨て、利他の精神に則る行動を身につけるための活学である。

一、武士道精神の源泉は「惻隠の情」である。

一、高潔な志をもった人づくりを行い、清明・正義・修養・忠誠・剛勇・仁愛・廉恥の精神を身につけるように日々、自己陶冶することである。

一、体内の細胞の動きも、自然の活動も、宇宙の営みも全て同じであり一つである。

(つまり明治維新の時、武士達が刀を捨て藩人から日本人になったように、日本人から地球人に、地球人から宇宙人となる日が何時か来ることでしよう。それは宇宙の営みである天地自然の理法を理解することです)

以上を踏まえ、武士道協会会員は国境を越え、宗教を越え、党派を越え、一人一人が世界平和の基となる武士道精神を宿すことに日々鍛錬しようではありませんか。

## ●プロフィール

昭和三年広島県生まれ。武士道協会参与。首都圏地区本部設立準備委員会広報担当。現在、建築会社勤務。現場監督という立場から部下の育成に武士道精神が大いに役に立ち、毎日が修練の場となっている。

# 連載 (第1回)

## 武士道の心得「礼法」 (武士の嗜み、神への敬意)

礼法着装講師

本多由佳



皆さんは「礼法」と聞いてどの様なことを思い浮かべますか？

堅苦しい？ 特別なこと？ 難しそう？

どれも礼法の含む一面としてはそうかもしれない。でも、一つ言えるのは皆さんが考えるような自分と遠い世界のお話ではないと言います。礼法とは、本来なら身近で私たちの平素の生活に密接したもののなのです。

今より昔、長い武士の時代、礼法は武家の嗜みでした。そう、当時礼法とはできて当たり前のことだったのです。それより昔、私達日本人は豊かで美しい自然に囲まれ、海に囲まれ、外敵に脅かされることなく豊饒な自然の恵みによって生かされてきました。万物は神であり、ありとあらゆる所に神があら

せられ、八百万の神々の恵みによって生かされている事が当たり前だったのです。そのため、受ける恵みは神々や自然の恩恵に感謝と

敬いの心をもって儀式を行う(祭祀儀礼(礼法の前身)が始まったのです。

日本にはたくさん神社があり、太陽からトイレに至るまでありとあらゆる所に神様がいらっしゃると思います。今でも日本全国様々なお祭りが行われております。その多くが豊作祈願や感謝祭であり、お祭りは私たちの文化と切っても切り離せない大切な行事です。それだけ昔から神を敬い、感謝し、祈る事は日常であり、私たちと密接な関係にあったのです。

礼法の「礼」の字は古くは「禮」と書き「イヤ」と読みました。この文字の「示」は神様

を現し、曲は収穫された稲穂を示し、豆は神様に捧げる「たかつき」を表しています。すなわち、神様の恵みによって得られた作物を

たかつきに盛りお捧げする、感謝と敬意を表す文字なのです。そして、「イヤ(禮)」とは「イヤマウ」、「ウヤマウ」ということです。

私達は誰かを心から尊敬し、その行いに感謝した時、自然とその気持ちを言葉で体で表現したいと思うでしょう。表情はきつと素敵な笑顔になって、口からは自然と「ありがとう」の言葉がでて、きつとお辞儀や会釈をしているのではないのでしょうか。それこそが礼の心なのです。私達が普段持っている誰かを敬う心、感謝する心、思いやる心、これこそが礼の表れなのです。

## マナーと礼法はどう違うのか

昨今、マナーがパーティーや結婚式、お葬式だけでなく、職場や近所付き合いなど身近で当り前に生活している様々な場面で求められてきています。有名な女性雑誌でマナー特集が組まれたりと、注目を集めています。それは今、より良い人間関係の構築が求められているからではないでしょうか。

駅や電車の中では「席を譲りましょう」「大きな声での会話は周囲のお客様のご迷惑になります」「大きな音で音楽を聴くのは周囲の方の迷惑になります」などのマナー関係のポスターがそこかしこに貼ってありますし、アナウンスもしています。会社に行けば取引先とのやり取りや電話対応、メールひとつにもマナーは必要です。おいしいレストランに行く時はもちろん、食事のマナーは大切です。

では、マナーと礼法ってどう違うのでしょうか。相手が不快に思わない、相手を思いやる行動をする事は一緒です。でも、そこに一歩自身の意識として、また儀礼としてさらに踏み込んだのが礼法なのです。例えば、電車

で座っていたら目の前に杖をついたお年寄りが乗ってきました。あなたは「どうぞ」と一声かけて快く席を譲ってあげました。これがマナーです。とても素晴らしいですね。でもこの後、快く席を譲ってもらったお年寄りがさも当たり前座ったらあなたはどう思いますか？ 或いはそのお年寄りとお連れの方が「杖をついてると席を譲ってもらえるからいいよね！」「あんたも杖をついたらいいんだよ！」などと目の前で会話されたら？ 席を譲ってあげたことが恥ずかしくなるくらい居た堪れない思いをしませんか。ここが礼の心、礼法です。思いやる側も思いやられる側も等しくお相手を思い遣り、感謝と敬いの心を持つて接したら決してこのような事にはならないでしょう。

難しく思われがちな礼法ですが、意外と日常にあふれているのです。お箸の持ち方使い方。実はNGな事があることを皆様も知識ではご存じと思いますが、無意識にそのNGをしている場面を多く見かけます。パーティーに御呼ばれたらフランス料理のフルコース。ずらっと並ぶナイフとフォークはどれか

ら使うの？ これらは食事礼法です。年始に初詣に行きました。お賽銭を入れて柏手を打ちます。これは儀礼儀式の礼法です。友人の結婚式に出席します。お祝儀を包まなきゃ、お祝儀袋は何がいいのかしら？ 表書きって何を書いたらいいの？ これだつて礼法です。和紙でささつと手作りのお祝儀袋が用意できたなら、格好が良いと思いませんか？ そして何より、美しい所作や立ち居振る舞い、これも礼法の醍醐味です。いかがでしょうか。礼法とは特別な事でも難しい事でもなく、毎日の日常にありふれている事なのです。ぜひ相手を敬い、思い遣る感謝の心を持って日々過ごしてみてください。それが礼法への第一歩です。そして、武士道を志す人が最も身に着け実践している必要のあることだからです。

### ●プロフィール

京都造形芸術大学で芸術学を学び、イタリアに二年間語学学習を兼ねて遊学。イタリアの教会で三、二年で被災した子供に除染をするための寄付金集めのボランティアに弟と参加し、折り紙を折って売り、折り紙の折り方や着物の着装を教える。日本の伝統文化が世界の人に喜ばれることを実感し、帰国して和の文化の学びを深めている。祖父が皇室掌典、曾祖父が侍従だったことから、幼いころより礼法は自然と身に着ける環境にあった。

会員さん  
からの便り

## 大和心を受け継ぐことの大切さ

武士道協会福岡県支部会計監査役

中山俊明



「サムライに会ったことがないので何とも言えません。ただ、日本人の男は決して諦めない。強い精神を持っていて、規律を大事にしている。その精神を個々のピッチで見せたい。そういうのがサムライ魂なのではないでしょうか」

これは、サッカーの本田選手がイタリAACミランに入団した際のTV記者会見で「サムライ魂とは何か？」という質問に答えた一文です。武士道精神をスポーツマンらしく簡潔な表現、それも英語でとっさにこういう言葉を口にできる彼には大いに感心させられました。今までは「1に本田、2に本田、3、4がなくて5に香川、6に遠藤……」と個性が強く目立ちたがり屋だけだと思っただけですが、よくよく関連する記事を調べてみると、彼は人一倍練習をしているし、自分の置かれた立場を良くわきまえて行動するプロ意識に秀でた好青年であることが解りました。

それに本田選手の家庭環境が今の彼を

育んでおり、子供時代は肥後モッコスのサムライ魂を持つおじいちゃんに厳しく育てられたそうです。よって、あのようなコメントが出てきたのも自然と信念を受け継いでいることからこそと合点がいききました。現在、この本田選手をはじめ、香川、長友、内田選手ら多数のメンバーがヨーロッパのチームで活躍しておりますが、彼らには今後も世界で日本男児の心意気を発揮して大いに暴れてくれることを期待しています。

ところで、昨今の世情は、トヨタが年間販売台数一〇〇〇万台を達成したとか、若いフィギュア選手がオリンピックで優勝するなど、まさに世界レベルで明るい話題は枚挙に暇がありません。反面、親子間での殺人事件、詐欺、汚職、食材の虚偽表示等「ええっ、日本で」と耳目を疑うような事件も頻繁に起きています。これは時代が時代だと諦めてしまえばそれまでですが、日本には古来から先人たちが淘汰し受け継いできた素晴ら

しい文化があります。その中の具体例として武士道精神でいえば、慈愛・誠実・忍耐・正義・勇氣・礼節・名誉・惻隠など倫理・道徳観があります。

個々の事由を唱えるあまり、この観念が希薄になってきているのも一因ではないでしょうか。唯物主義でなく、拝金主義でもなく、清澄爽快の感覚を磨き、自然に対して感謝、祖先に対する尊敬と親孝行等、心を豊かにする事象を大切にすることが肝心なことであり、武士道精神を学び受け継ぐことは今を生きる人間として当然のことではないでしょうか。

今後は福岡県支部が開くセミナーなどを通じて、武士道精神、それを言い換えて大和心に共鳴し、その響きを共有できる同志を一人でも多く増やせるように努めたいと思います。

### ●プロフィール

武士道協会福岡県支部会計監査役  
一九四九年熊本県玉名市出身



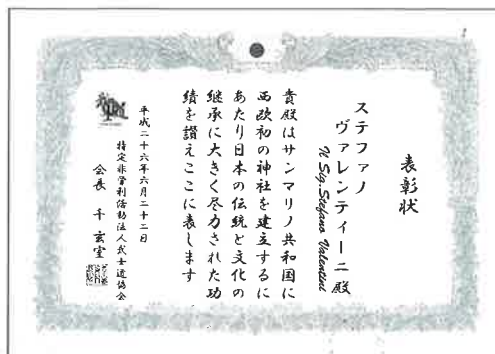
書：篠崎流水

オーストリア・ハプスブルク王家宮廷書家／風水龍書作家  
風水龍は元気の源。NHKでも紹介されました。  
巻頭言の書「武士道」と「和歌」も書作。

表彰(平成26年6月の表彰)  
受賞者



1号 マンリオ・カデロ氏(国籍サンマリノ共和国)



2号 ステファノ・ヴァレンティーニ氏(国籍サンマリノ共和国)



3号 フランチェスコ・ブリガンテ氏(国籍イタリア)



上記の3名は、サンマリノ共和国に於いてヨーロッパ初の日本式神社を建立することにより日本の伝統と文化を伝え広める功績がありましたので、武士道協会会長千玄室より表彰状と楯を授与いたしました。

表彰者の推薦を受け付けます

武士道協会では、推薦者に代わって表彰を行います。推薦は自他を問いません。内容の審査の結果、正当と認められ下記の功績を残した方々に対して、額縁入表彰状(個人A3)と楯(個人A5)を授与します。

1. 世界の平和に寄与した者
2. 人命救助をした者、或いは、支援をした者
3. 日本の伝統と文化を継承した者、或いは、広めた伝えた者
4. 社会的な難問を解決した者、或いは、支援した者
5. その他、社会に貢献したことを認められる者

申込方法:武士道協会事務局へ下記のいずれかの方法でお申し込みください。  
電話 03-5325-2660  
または e-mail : info@bushido.or.jp

編集後記

武士道は歴史を掘り返した勉強ではなく、平素の生活の中で活かすための生きた学びであり、実践するからこそ役に立つものであることを多くの方々にとって頂きたいという思いで9号を作成しました。いくら西郷南洲でも山岡鉄舟でもIT社会を知らなかったのですから、あの時代の武士道を記憶しただけでは使えないのです。先人たちの思いを頭で覚えるのではなく彼らの思いを感じ取って実践して、それで初めて彼らを理解できるということを肌で感じとって欲しいと思っています。常に目は外を向いていますから、心の目を内側に向けて武士道を実践するために協会を活用して頂きたいと思っています。感謝。

武士道協会事務局

〒163-1320 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー20階  
TEL (03) 5325-2660 FAX (03) 5325-1618 URL : <http://www.bushido.or.jp/>

特定非営利活動法人  
武士道協会

- 武士道第9号
- 平成26年7月発行